

動脈硬化が原因で心臓の弁に異常が！

だい どう みやく べん きょう さく しょう

# 大動脈弁狭窄症

大動脈弁狭窄症——この病名には馴染がないかもしれませんが、「心不全を起こす病気のひとつ」といえば、その深刻さがおわかりいただけると思います。しかし医療の発展により、大動脈弁狭窄症は治すことが可能ともなっています。

## 大動脈弁狭窄症とは

心不全は、心臓に機能低下が起こっている状態です。血液を十分に送り出すことができないため、身体に様々な影響がでるだけでなく、死に至ることもケースも多くあります。統計によると、日本では毎年7万人が心不全で亡くなっています。

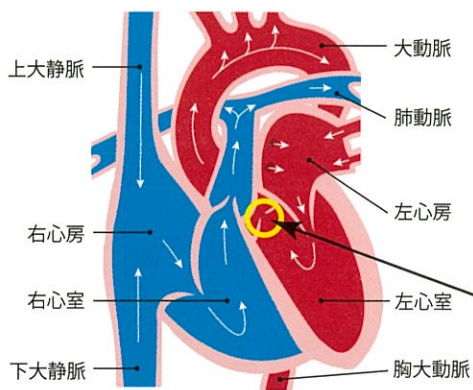
心不全のなかで、心臓の弁に異常が起こる病気が「心臓弁膜症」です。心臓の弁は心臓の動きに合わせて開閉することで、送り出した血液が心臓に逆流することを防ぎます。この心臓の弁が硬くなっ

て動きが悪くなり、開きが小さくなる——このひとつが「大動脈弁狭窄症」です。

## 大動脈弁狭窄症の原因と症状

大動脈弁狭窄症の原因とされているのは、加齢による動脈硬化です。このため、高齢化社会が進むにつれて、大動脈弁狭窄症の患者数は増加しています。日本国内の潜在患者数は、推定で100万人に達するという意見もあります。

大動脈弁狭窄症の初期は、自覚症状に乏しいという特徴があります。病気の進行はゆっくりで、病気が進むにつれて胸の痛みや息苦



しさ、手足のむくみ、失神といった症状が起こります。しかし、自覚症状を感じた時点では、病気がかなり悪化しているケースが多くあり、突然死の原因にもなっています。

## 大動脈弁狭窄症の治療 (弁置換術)

大動脈弁狭窄症の発見に大きな力を発揮するのが、心臓超音波検査（心エコー検査）です。

検査で重症化した大動脈弁狭窄症が見つかった場合、障害を受けた心臓の弁は自然治癒することがないので、心臓の弁を取り換える手術（弁置換術）が行われます。

症状が出る前に検査を!



比較的若い年齢での弁置換術では、特殊なカーボンで作られた「機械弁」と呼ばれるものを心臓に植え込み、弁の代わりとします。

一方、患者が65歳以上の場合は、牛の心臓や豚の心臓弁を人間に合わせて処理して作った「生体弁」がおもに植え込まれます。

80歳以上の場合には、経カテーテル大動脈弁置換術が行なわれるようになってきています。

**大動脈弁狭窄症**  
**(発見と治療)**

大動脈弁狭窄症は、弁置換術の発達により、決して治らない病気を

ではなくなりました。とはいえそのためには、できるだけ早期に発見することが必要となります。

また、弁置換術を受けたことのある人がまだ少ない、という問題点も指摘されています。大動脈弁狭窄症の潜在的な患者のうち、多くの人が治療を受けることなく、突然死を迎えているという現実があります。

こうしたことを防ぐためには、心不全や大動脈弁狭窄症について知り、症状が起こるまえに定期的に心臓の検査を受けて、病気を発見することが重要になります。



**改正健康増進法**

2020年4月の全面施行の前に、今年7月から、改正健康増進法の一部が施行されました。7月からは、すべての病院・学校・児童福祉施設・行政機関の施設の屋内は、完全な禁煙となりました。また、屋外であってもこれらの施設の敷地内においては、受動喫煙を防止する措置が取られている特定の場所以外は禁煙となります。

健康増進法は、「健康寿命の延伸・生活の質の向上を実現するため、健康づくりや疾病予防を積極的に推進する」ことを目的に定められた法律で、改正健康増進法ではとくに「受動喫煙」の問題に焦点が当てられています。

受動喫煙による健康被害は深刻で、その死亡リスクは高血圧や糖尿病に匹敵することがわかりました。受動喫煙は、喫煙しない人や子どもにも被害が及ぶため、対策や法整備が急がれていました。

改正健康増進法では、法律に則った対策を怠った施設の管理者や、禁止場所で喫煙した人への罰則も定められています。これまで多くの場合において努力義務に留まっていた受動喫煙対策とは、根本的に大きく変わるといえるでしょう。

喫煙される方のなかには改正健康増進法の施行で、「肩身が狭い」「不便」と感じる方もいますが、これを機に禁煙について考えてみることも大切です。

